

施策評価シート（評価実施年度：平成27年度）

事務事業所管部局長 (幹事部局)	地域振興部長 鴨木 朗	電話番号	0852-22-5080
---------------------	-------------	------	--------------

①施策の目的等

施策の名称	施策 I-6-2 航空路線の維持・充実
目的	航空路線の維持・充実により、県営3空港の利便性の向上を目指します。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
出雲縁結び空港の年間乗降客数	目標値		700.00	700.00	700.00	700.00	千人	萩・石見空港の年間乗降客数	目標値		70.00	70.00	70.00	70.00	千人
	取組目標値				770.00	800.00			取組目標値				125.00	130.00	
	実績値	637.00	696.00	834.00	785.00				実績値	66.00	71.00	79.00	114.00		
	達成率		99.40	119.10	102.00				達成率		101.40	112.90	91.20		
隠岐世界ジオパーク空港の年間乗降客数	目標値		51.00	51.00	51.00	51.00	千人		目標値						
	取組目標値								取組目標値						
	実績値	52.00	52.00	52.00	51.00				実績値						
	達成率		102.00	102.00	100.00				達成率						
定性目標	平成24年度～平成27年度														
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	<ul style="list-style-type: none"> 出雲縁結び空港の年間乗降客数は、出雲大社の大遷宮の効果の継続などにより、H26年度の実績が既にH27年度目標値を超えていることから、近年の実績及びH27年3月から運航再開した出雲名古屋線の利用も踏まえて、取組目標値を80万人として取り組む。 														

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状（客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況）	<ul style="list-style-type: none"> 県内航空路線を維持、拡充させるため、地元自治体や各空港利用促進協議会等と連携し、旅行商品造成支援やPR活動など、アウト・イン双方の利用促進に取り組んでいる。 〔出雲縁結び空港〕21世紀出雲空港整備利用促進協議会への助成 <ul style="list-style-type: none"> ・利用情報の発信 ・イベント実施、旅行商品の造成支援 ・運航再開した名古屋線の利用促進 〔萩・石見空港〕萩・石見空港利用拡大促進協議会への助成 <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏等からの団体旅行商品等の造成支援、航空会社と連携した個人客の誘客促進 ・2次交通の充実、利用情報の発信 ・夏季限定運航の大阪線の利用促進策 〔隠岐世界ジオパーク空港〕隠岐空港利用促進協議会への助成 <ul style="list-style-type: none"> ・関西等からの団体旅行商品や地元発旅行商品等の造成支援（夏季ジェット便） ・関西等でのPR、利用情報の発信
---	---

④総合的な評価

評価時点での総合的な評価	判断	その理由
A:順調に進んでいる B:概ね順調に進んでいるが見直す点もある C:あまり順調に進んでいない	B	○県、地元自治体、各空港利用促進協議会が連携した利用促進の取組み、出雲大社の大遷宮の効果や観光キャンペーンによる観光客の増加等に伴い、近年の県内3空港の利用者数は、増加傾向が続いている。 ○路線としては、出雲名古屋線が平成27年3月29日から、出雲札幌線がH26年度から8月の季節運航として、再開した。 ○萩・石見空港の東京線は、平成26年3月30日から昼、夕の2便化により、利便性が高まったことで、H26年度の利用者数は、前年比の約1.5倍と大きく増加したが、H26年度の目標値（利用者数12万人、利用率60%）は達成できなかったため、更なる利用者増に向けて県、地元の取組みの強化が必要。

⑤課題の認識

（1）平成27年度末の施策目的の達成状況（予測）	判断	その理由（「総合的な評価」の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載）
A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	A	<ul style="list-style-type: none"> ・都市圏から島根への関心は高まりつつあり、引き続き、観光部局や地元自治体、空港利用促進協議会と連携した県外への島根の魅力の情報発信や観光客誘致の促進に取り組むことにより、航空需要は今後とも高まると見込まれることから施策目的の達成は可能。
（2）施策の目的達成に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> ・景気低迷や人口減少等により、航空需要は横ばいからやや微減傾向にあり、航空会社を取り巻く状況は厳しくなっている。 ・こうした中で、県内航空路線の維持・拡充のため、観光客の誘致などによる交流人口の拡大、利便性の向上に向けた取組を継続して推進する必要がある。 ・また、新幹線と競合する山陽地域の各空港に対して、県内空港は、依然として割引運賃の金額に格差があることから、航空運賃の低廉化について、引き続き航空会社へ要望していく必要がある。

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○出雲大社の大遷宮効果の継続などにより、県内3空港の利用者は順調に増加したが、観光部局や地元自治体、各空港の利用促進協議会と連携して、引き続き首都圏・関西など大都市圏からの観光客の誘致促進をはじめ、地元利用の増加などに取り組み、各路線の維持・充実に取り組んでいく。 〔出雲縁結び空港〕東京線：中型機の増便または6便化、大阪線：利便性の向上（ナイトステイの復活） 〔萩・石見空港〕東京線のH28年度以降の2便化運航の継続、大阪線の定期運航の再開 〔隠岐世界ジオパーク空港〕東京直行便の開設 ○特に、萩・石見空港東京線は、国の羽田発着枠政策コンテストで採択され、2便に増便されたものであり、政策コンテストの動向を注視しながら、H28年度以降の2便化継続に向けて、利用実績の更なる上積みを図るなど利用促進の取組を地域と連携して進めていく。 ○航空会社に対して、航空運賃の低廉化や県内航空路線の充実を粘り強く働きかけていく。 ○羽田空港発着枠の地方航空路線への優先配分や地方の航空路線維持・拡充に対する支援制度の創設等について、国に要望していく。
---------------------	---